海と空の関わりを調べよう！

埼玉うみかぜ探検隊

県内の小学生が埼玉と海を繋ぐ「風」と「海」の現状について学ぶ「埼玉うみかぜ探検隊」は8月9日、10日の2日間、小学5、6年生27人が参加して熊谷市と千葉県勝浦市を訪れた。

日本財団の「海と日本プロジェクトin埼玉県」事業の一環として行われ、「風」を通して埼玉と海との繋がりを学び、さらに海の現状を学ぶことで、未来の海をどのようにして守っていくかを考えた。

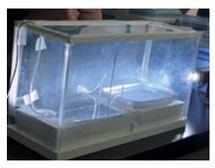
熊谷の暑さの理由を調べるために子どもたちが訪れたのは、熊谷市にキャンパスを構える立正大学。同大の渡来靖教授は気象学を研究しており、なぜ夏は暑くて冬は寒いのかという身近な疑問から、同じ関東の中でも、熊谷は暑く千葉県勝浦市が涼しい理由、陸地を冷やす効果がある海風のメカニズムについての授業を行った。海風をより詳しく知るために行われた実験では、屋外で太陽に当てておいた土や砂、水、コンクリートなどが用意され、子どもたちは放射温度計でそれぞれの表面温度を測った。土などの物質は温まりやすく冷めやすいこと、水は温まりにくく、冷めにくいことを学び、物質ごとで全く違う結果となったことに驚いていた。

「埼玉うみかぜ探検隊」は千葉県勝浦市へ移動し、浜行川漁港で伊勢海老漁を体験。5つの班に分かれた子どもたちは、地元漁師たちに教えてもらいながら、網にかかった伊勢海老や魚、海藻、ごみなどを取り外した。悪戦苦闘しながらも徐々に慣れていき、最後には漁師さんから褒められるくらい上達していた。また、千葉県勝浦水産事務所の庄司紀彦さんから千葉県内の漁業について、用意されたブダイやニザダイ、アイゴ、メジナなどの未利用魚に触れながら説明を受けた。現在勝浦で起こっている魚種の変化や海水温の上昇に伴い今まで取れなかった魚が増えていること、それにより海藻が食べつくされてしまう磯焼けの問題と勝浦で行っている未利用魚の活用などについて学んだ。

その後は、千葉県立中央博物館分館「海の博物館」の平田和彦さんを講師に迎え、勝浦周辺に生息する海風を利用して遠くまで飛行するオオミズナギドリなどの海鳥の生態や、海鳥によって作られる生態系についての授業が行われた。平田さんから海水温の上昇など地球温暖化に伴う影響について、人間の活動によって温暖化が進み、海の中だけでなくその周辺の生態系が変わってしまうことを学んだ。地球上の氷が溶けることで水位が上昇し、海鳥が生息する島がなくなってしまう可能性についても説明を受け、子どもたちは真剣な眼差しで熱心にメモを取りながら話を聞いていた。

2日間を通して、気象や漁業、海鳥など、さまざまな角度から海に向き合い、海風によって作り出される勝浦の気候と熊谷の違い、海水温の上昇に伴って起こる海とその周辺の生物の生態系の変化や、磯焼けの問題など、現地で体験して学習した。「節電を心がけ、こまめに電気を消す」、「二酸化炭素を出さないようにごみを減らすように心がける」など、現在起こっている温暖化の問題を自分のこととして捉えられる貴重な体験となった。

最後に、2日間の学びから、子どもたちが未利用魚を使った寿司メニューを考えた。この中から選ばれたメニューが、埼玉県を中心に展開しているすしチェーン店「がってん寿司」で商品化を予定している。



海と日本PROJECT in 埼玉県

私が考えた『未利用魚』のお寿司

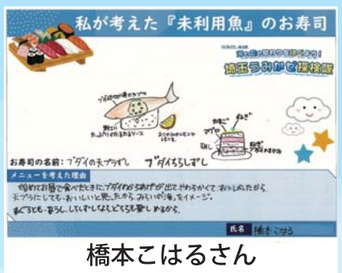
石貫勝也さん

赤沼暖仁さん

安藤蒼椛さん

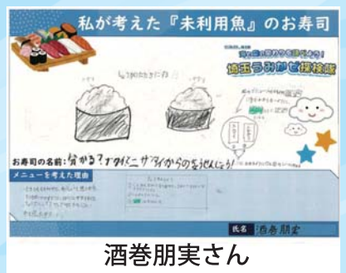
忍足優羽さん

大橋継士さん

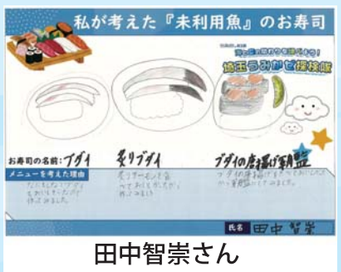

橋本こはるさん

佐藤絢香さん

小山達臣さん


酒巻朋実さん

橋本凪琉さん

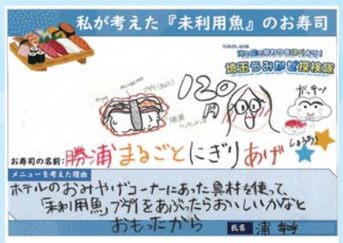

田中智崇さん

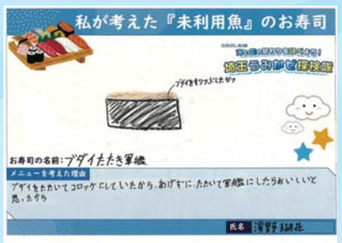
杉村奈海さん

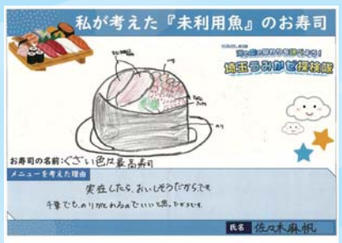
金谷ゆきのさん

大久美月さん

浦勇将さん

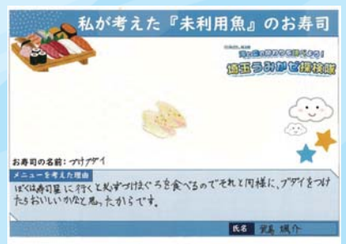

浦幸呼さん


濱野瑚花さん

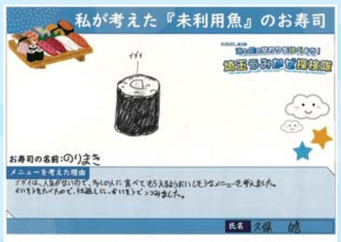

佐々木麻帆さん

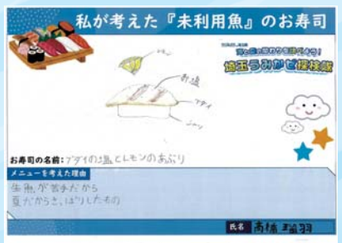
名倉士雄さん

福島新さん


武島颯介さん

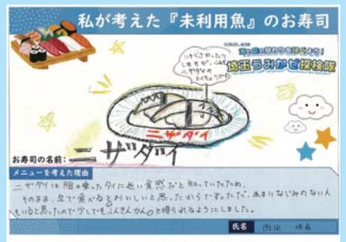
土屋春人さん


久保皓さん


髙橋瑠羽さん

八木原千尋さん

木村友南さん


西田咲希さん